

岩国基地周辺における令和7年度の航空機騒音の状況【概要版】

令和8年5月
山口県基地関係県市町連絡協議会

令和7年度の岩国基地周辺の航空機騒音の状況を以下のとおり取りまとめた。

1 概況

【月別W値の推移】

- 令和7年度は、例年と同様に米空母艦載機によるFCLP前後の訓練等の影響により、4月から6月のうるささ指数（W値）が高くなった。
また、9月に、25年ぶりに岩国基地で実施されたFCLPと、その後、九州沖で実施されたCQの影響により、9月から10月のW値も高くなった。
- その他の期間においては、例年と比べると、概ね同程度、または下回る水準で推移した。

- ・ 4～6月中旬は、例年と同様のFCLP前後の基地周辺での集中的な訓練や、九州沖の洋上の空母で実施されたCQに伴う夜間離着陸などの影響により、4月から6月のW値が高くなった。
- ・ 8月下旬に空母艦載機が一時帰還した当初は、例年と比べW値は低かったものの、9月には、岩国基地におけるFCLPの実施により、半数近くの測定地点（34地点中16地点）が年度の最高値のW値となったことに加え、10月にはCQが実施されたことから、10月のW値も高くなった。
- ・ その後、艦載機が帰還した12月以降は、帰還前と比べると騒音は増大したが、例年と比べると、概ね下回る水準で推移した。

【過去の年間測定値等との比較】

- 空母艦載機移駐後（平成30年度～令和6年度）との比較

【令和6年度との比較】

- ・ 比較可能な28地点中23地点でW値が増加した。

【平成30年度～令和6年度との比較】

- ・ 比較可能な28地点中、令和7年度が最大値となったのは7地点であった。

- 空母艦載機移駐開始前（平成24～28年度の平均）との比較

- ・ 比較可能な21地点中18地点でW値が増加しており、中でも基地近辺の北西側、西側等で増加した。

2 航空機騒音への対応

- 岩国基地周辺の騒音対策については、毎年、国に対し、県による政府要望、山口県基地関係県市町連絡協議会要望を行っている。
- また、令和7年度は岩国基地におけるFCLPについて、訓練実施前には山口県基地関係県市町連絡協議会として、FCLPを岩国基地において実施しないよう要請を行い、訓練実施後には、政府要望時に、地元市町とともに、二度とFCLPを岩国基地で実施しないよう要請を行った。
- 県としては、引き続き、県・地元市町が連携し、状況把握に努めるとともに、国や米側において、要望した取組が進められるよう働きかけていく。

【参 考】

《令和7年度 政府要望（令和7年11月）（抜粋）》

1 米軍岩国基地に係る安心・安全対策の推進

- 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施
 - ・ 集中的な飛行訓練について、岩国基地周辺での実施の緩和や訓練場所の分散などの騒音軽減措置の実施
 - ・ CQ（空母着艦資格取得訓練）実施時の運用時間帯への配慮
- 住民の不安解消に向けた措置の実施
 - ・ 住民生活への影響が大きい訓練（外来機によるものを含む）の事前通知
 - ・ 航空機の陸揚げや艦船の寄港の際の、必要性や目的、基地での運用方法等の事前の十分な情報提供
 - ・ 空母艦載機の滞在状況、配備機の機種更新等の運用や配置に関する迅速かつ適切な情報提供
 - ・ FCLP（空母艦載機着陸訓練）の予備施設指定からの除外
- 国による騒音対策の拡充
 - ・ 住宅防音工事の事務所・店舗等への拡大や艦載機滞在時の状況に対応した対象区域の見直しなど、地域の実情に即した防音対策

《岩国基地関連の特別要望（令和7年11月）（抜粋）》

岩国基地における空母艦載機の着陸訓練に関する要請

- 今後、岩国基地において、空母艦載機による激しい騒音被害をもたらすFCLPが二度と実施されることのないよう、米側に求めるとともに、そのためのあらゆる手段を講じること。
- 岩国基地をFCLPの予備施設指定から除外すること。
- 硫黄島において、FCLPが実施できるよう、速やかに硫黄島航空基地の施設の復旧を図ること。
- FCLPの恒常的な訓練施設の早期確保を図るため、馬毛島における施設整備を一層促進すること。

《令和7年度 山口県基地関係県市町連絡協議会要望（令和7年8月）（抜粋）》

I 騒音対策の強化

- 1 岩国基地における航空機騒音等の軽減
 - 飛行運用に係る騒音軽減措置の実施（集中的な飛行訓練の実施の緩和など）等
- 2 住宅防音工事等、騒音対策の充実
 - 住宅防音工事対象の拡充（第1種区域の見直しにおける艦載機滞在時等の騒音状況の反映など）